



【令和3年度予算が成立】

3月26日の福岡市議会本会議において、令和3年度予算が可決されました。一般会計は令和2年度を大きく上回る予算規模の**1兆545億円(+18.8%)**で、特別会計・企業会計と合わせ、**総額2兆1,564億円(+11.0%)**となりました。昨年12月に実施した「会派予算要望」に対し前進した施策もありますが、引き続き「基本政策」の実現に向けた政策提言ならびに要望を続けてまいります。同時に、令和3年度予算に対して、適正な執行が行われるよう注視していきます。

令和3年度 第1回福岡市議会(定例会)開催

第1回定例会(2月17日～3月26日)が召集され、令和2年度補正予算案、ならびに令和3年度予算案の他、条例の改正等、全133議案について審議しました。

▶ コロナ禍を乗り越える切り札“ワクチン接種”への取り組み

福岡市では、国からワクチンが供給され次第、**希望される全ての方**が安心して接種できるよう準備を進めています。

1. 接種までの流れ

- ① **通知の受取**: 市からワクチン接種に必要な接種券・予診票を送付
- ② **事前予約**: クリニックへの直接予約・電話予約※・WEB予約
- ③ **ワクチン接種**: 接種会場(クリニック等)に行ってワクチン接種を受ける(2回)

2. 接種対象者

福岡市に住民登録のある16歳以上の方(医療従事者等を除く)約129万人
※市内の施設に長期入院・入所中の方、基礎疾患があり市内の主治医の下でワクチンを接種する場合は、住民登録していなくても接種可能です。

3. 接種会場

- ・地域のクリニック(市内約700か所)
- ・地域のクリニックを支援する「基幹的な病院」(各区2か所程度)
- ・集団接種会場(マリンメッセB館、他は集中時期に順次開設)
- ・出張接種(高齢者施設等へ実施)

『ワクチン接種開始に向けて、提案!』

私たちは、2度目の緊急事態措置を受けての提言要請や2月議会での議案質疑及び常任委員会審議、3月議会における条例・予算特別委員会分科会審議など、様々な場面でワクチン接種に関する提案・要望を重ねてきました。

具体的には、早めの情報提供を心掛け、コールセンターを早期に立ち上げること、接種会場は多くの人数の接種が可能な大規模会場を複数確保すること、会場運営は、医療従事者の負担を軽減しつつ、コロナ禍により事業継続が困難になっているイベント会社等を救済する視点も含めて取り組むこと、一般接種が始まった際には民間企業の協力を得て事業所向けの出張接種を計画し、集団接種会場の混雑緩和に努めることなどを提案。国からの具体的な指示が出される中、少しずつ前進しつつあります。

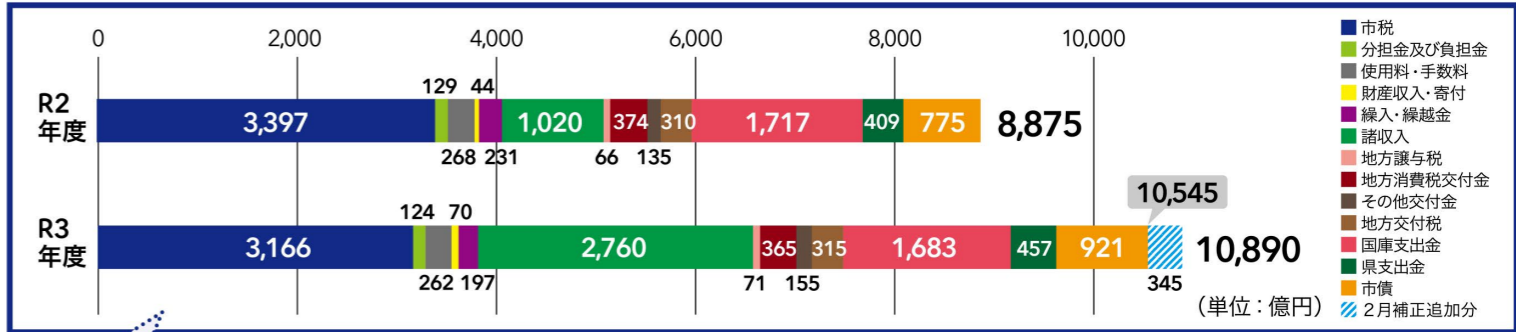
【ワクチン接種コールセンター】

福岡市の新型コロナワクチン接種に関する問い合わせや相談窓口
電話番号: 092-260-8405
受付時間: 8時30分～17時30分(土日祝も可)
※接種券の受け取り後、電話予約の受付番号となる予定です。



福岡市 令和3年度 一般会計予算の概要

歳入 コロナ禍の影響で市税収入の大幅な減少が見込まれる中、国のコロナ対策特別交付金と市の財政調整基金の活用により一般財源を確保するとともに、預託金収入を踏まえた歳入予算となりました。



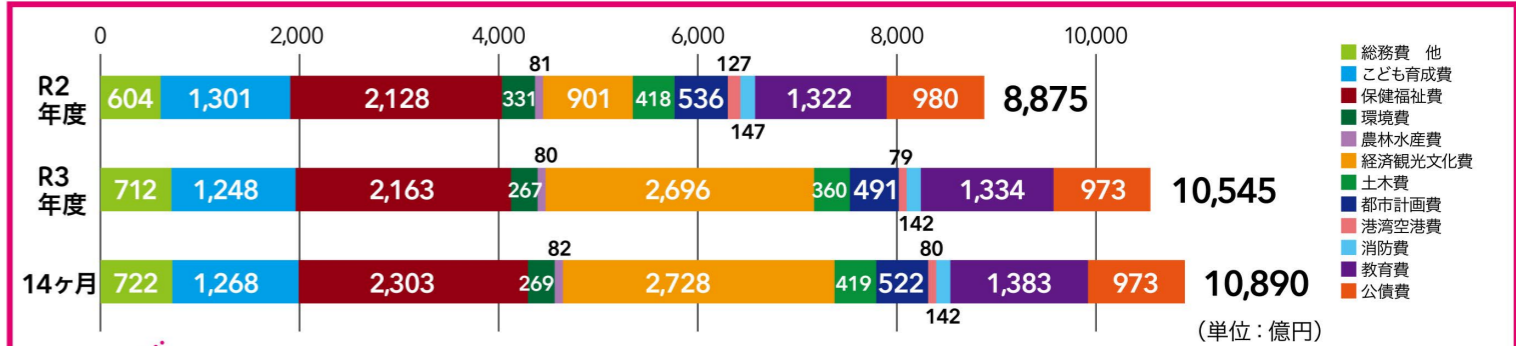
◆市民税の減収と一般財源の確保

市税収入は3,166億円で、給与収入や企業収益の減等による市民税の減や中小事業者等に対する固定資産税の軽減措置の影響などにより、▲231億円の減収の見込みです。一方で、自治体の基準財政収入額が影響する地方交付税と臨時財政対策債については増額され、昨年度比160億円のプラス(増)となる見込みとなっています。また、国によるコロナウイルス対策の特別交付金の創設分と財政調整基金の活用を合わせて、一般財源の総額については令和2年度を上回る額4,681億円を確保しました。

◆14ヶ月予算

令和3年度予算については、国の補正予算と連動した、令和2年度2月補正予算と一体的に編成することにより、コロナ禍においても真に必要な施策を積極的に推進する予算編成を実施しました。令和2年度の2月・3月の2カ月と令和3年度の12カ月を総じて「14カ月予算」と称しています。

歳出 商工金融資金の融資枠拡大に伴う経済観光文化費の増加や、就学前児童の教育・保育に係る給付費及び障がい児・者の施設給付費等の社会保障関係費の増加などにより、1兆545億円となりました。



◆グラフの見かた

令和3年度の一般会計予算総額は1兆545億円ですが、歳入の345億円(R3グラフ右端: 会派調べ)は、令和2年度補正予算を繰越し3年度に実施する事業費分ですので、歳出予算のグラフは1兆545億円分の歳出予算と総計1兆890億円分のグラフの2種類を掲載しています。

TOPICS 2度目の緊急事態措置を踏まえた経済対策!

●売上が減少した事業者への支援 専用サイトあり

対象者: 国・県の協力金の支払対象外で、30%～50%以上売上減少した事業者
支給額: (法人)上限15万円 (個人事業者)上限10万円
申請期間: 3月10日(水)～6月14日(月)

●感染症対応シティ促進事業 専用サイトあり

対象者: 商品販売やサービス提供を行う施設を運営・営業する中小企業・小規模事業者
支給額: 上限60万円(内、物品・サービス経費は上限20万円)
申請期間: 3月10日(水)～6月30日(水)

●プレミアム付き商品券事業

- ・**全市版**: 福岡商工会議所が取り組む市内全域の登録店舗対象の電子版商品券、7月予定
- ・**商店街版**: 令和2年度に引き続き、市内の商店街の発行を支援、随時公表

●宿泊・観光業に対する支援

- ・宿泊施設のポストコロナを見据えた非接触化・非対面化などを支援
- ・仕事と観光的魅力を組み合わせ「ワーケーションプラン」づくり等支援、6月頒発

令和3年度 「こんなところ」に取り組みます! ～新規事業を中心にご紹介～

●コロナ: 検査・医療提供体制の充実

- ・PCR検査の充実(医療・介護従事者、妊婦、感染流行地域、高齢者)
- ・自宅待機者への健康観察等のフォローアップ
- ・感染症に関する相談体制の強化

●子どもの未来を育む

- ・不妊治療や不育症治療費の助成の拡充
- ・子どもの通院医療費助成を中学生まで拡大
- ・保健師の家庭訪問や親子教室のオンライン化
- ・虐待のリスクを抱える家庭への訪問等の見守り強化

●教育環境の充実

- ・小中学校の特別教室への空調整備
- ・特別支援学校高等部の新設(2校)に着手
- ・全小中学校で35人以下学級実施

●人生100年時代に向けた暮らしやすいまち

- ・オーラルケア28(全世代の歯と口腔の健康づくり)
- ・シニアハローワークの開設とシニアの就労支援
- ・住む人が健康になるまち「Fitness City」の検討開始
- ・重度障がい者に対する支援の拡充



●新しい生活様式への支援

- ・行政手続きのオンライン化の促進
- ・宅配ボックス普及促進(非接触化&再配達防止)
- ・公民館へのWi-Fi環境整備

●安心安全のまちづくり

- ・カラス被害防止対策としての機器の貸し出し
- ・公共施設や公園の手洗い水栓の非接触化
- ・中央区における消防署所(新平尾出張所)の再編整備

●災害に強いまちづくり

- ・消防ヘリコプター「ゆりかもめ」の更新整備に着手
- ・災害時の貯留機能を持った大容量送水管の新設

●福岡市の産業の活性化の取り組み

- ・国際金融機能や外資系金融機関の誘致推進
- ・企業間取引のデジタル化に向けたセミナー開催
- ・ECサイトを先駆的に活用する農家のPR
- ・障がい福祉サービス事業所へのロボット等の導入支援
- ・都市圏の修学旅行等の受け入れによる観光産業の活性化

●文化・芸術・スポーツに親しむまちづくり

- ・音楽都市振興事業(音楽が溢れるまちづくりへ)
- ・世界水泳選手権2022福岡大会開催に向けた準備

●環境先進都市に向けた取り組み

- ・再生可能エネルギー由来電力の利用の啓発
- ・緑地の保全と「一人一花運動」の取り組み支援

●公園・憩い空間の再整備

- ・海づり公園施設の再配置のため基本設計へ
- ・志賀島・北崎エリアの立ち寄りスポットづくり
- ・動物園のペンギン舎の完成へ
- ・油山市民の森&牧場のリニューアル

●公共事業による地域経済の下支え

- ・生活道路等の整備・修繕、バリアフリー化の推進
- ・市営住宅の建替え・改善の前倒し
- ・大規模な公園や市民に身近な公園の再整備

